

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌東高等学校長 須藤 克志

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 初期指導（深化） 「シンカプロジェクト」の実施と改善、3年間を見越した学習・進路活動の構築
(2) 探究活動（進化） 「探究ヒガシ」の構築、国際交流など更なる探究的な活動の推進
(3) 授業（進化） 「学びの質を高める」ためのICT、生成AIを活用した授業改善、「学びのコンソーシアム」等、研修の実施と積極的な参加
(4) 生徒の主体的な活動（深化） 生徒の活動支援、生徒の活躍の校内外への情報発信

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> シンカプロジェクトによる初期指導及び「学びのコンソーシアム」の成果として、生徒の学習意欲向上につながる授業改善の機運が高まっている。 「総合的な探究の時間」をさらに充実させるためには、教科横断的な探究的な学びを学校全体として取り組むための研修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は概ね良好である。 ・研修の充実を図ってほしい。 ・次世代の学習指導の在り方を突き詰め、国のモデル校として活躍してほしい。 ・シンカプロジェクトを通して、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長をめざしてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのコンソーシアム」の活用等、研修受講奨励や校内研修の充実を図る。 教科・科目の特性を踏まえた探究的な学習の推進に向けた各教科における研究と実践を推進する。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を目指し、継続的・計画的な指導を概ねできた。 校内外の生活における規範意識の醸成と実践に係る時機に応じた指導の充実が必要である。 行事では、生徒の自主的な取組により、自己有用感や集団への帰属意識を高められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は概ね良好である。 ・改めて高校におけるSNSとの向き合い方について継続的に指導してほしい。 ・学校生活だけでなく、校外においても東高らしさを意識させるよう取り組んでほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や学校行事だけでなく、SNSの適切な利用等についても、自律的に行動することの目的や意図を生徒がしっかりと理解できる指導を充実させる。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアトーク」など、生徒の進路意識を高揚させる取組が浸透している。 生徒の学力向上に向けた講習や模試等の在り方について全体で検証する必要がある。 入学時からの進路の可能性を広げる初期指導プログラムによるキャリア教育の充実に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は概ね良好である。 ・「キャリアトーク」は今後も積極的に開催すべきだ。 ・多様化が進む生徒たちには、個別最適な進路指導が重要である。 ・生徒への情報（選択肢）は、たくさん提供してほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 現在の取組を確認・検証し、組織的で系統的な進路指導を推進する。特に、進路意識の高揚に向けた取組と学力向上が一体となったキャリア教育を一層充実させる。 	
保健安全指導	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談を分掌に位置付け、生徒に寄り添った支援体制を構築することができた。 入学間もない時期に集団づくりエクササイズを実施し、大変効果的であった。 暑さ対策や防災教育など、危機管理における周知と徹底が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は概ね良好である。 ・生徒のSOSを受け止める研修を積極的に実施してほしい。また、教育相談体制の充実については、継続して改善を期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに寄り添い、道教委の事業を積極的に活用するなど一層の学校体制を充実させる。 危機管理マニュアルについて、不断の見直しと周知徹底を図る。 	
公表方法	本校ウェブページに掲載	